

# はばたき

大分大学教育学部  
附属小学校便り  
平成 28 年 12 月 16 日

## 「4R」を基盤とした外国語活動の実践

外国語活動担当 秦 潤一郎

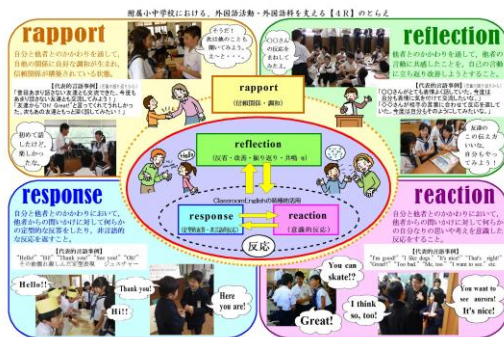
現在、国や県の最重要課題である児童の学びに向かう力や思考力・表現力の向上に向け、11月19日に外国語活動の公開授業を行い、文部科学省の直山調査官をはじめ、広く県内外から130名を超える先生方に本校の研究実践や子どもたちの様子を見ていただきました。

ご承知のとおり、外国語活動は本校が掲げる重点項目の一つです。その外国語活動において、本校が何を目指し、その達成に向けてどのような取組を行っているのか、この場を借りてご紹介させていただきます。

まず、外国語活動を通して本校が目指すものは、学習指導要領の目標である[コミュニケーション能力の素地の育成]を基盤に、“積極的に英語を使おうとする児童の育成”と定めています。上記の学びに向かう力や表現力の向上にまさに合致するものであり、大分県教育委員会が提唱する「大分県グローバル人材育成推進プラン」の具現化に向けても、本校はその使命を担っていると言えます。

次に、その達成に向けた取組の一つとして、「4R」をご紹介します。この4Rとは、昨年度大分県グローバル推進委員や附属中学校を交えた小中外国語連携会議において生み出されたもので、「Response」「Reaction」

「Reflection」「Rapport」の4つの頭文字をとって名付けたものです。「Response」と「Reaction」は、無意識的と意識的で区別されますが、いわゆる“反応”を意味しますが、例えば、好きな動物を尋ね合う学習の場合、主として学習するセンテンスは“What animal do you like?” “I like dogs.”ですが、



このやりとりだけで、コミュニケーションが活発化すると言えるでしょうか。主となるセンテンスの前後に、“Oh, nice! (いいね!)” “Me, too! (私も!)” “Really? (本当?)” “Anything else? (他には?)” などの様々な反応があってこそ、本来の人間的なコミュニケーションが成立すると考えました。そこで本校ではこの反応表現を集めるだけ集め、発達段階別に扱っています。全学級に掲示している3色(高学年は4色)の掲示物がそれです。私たちはそれを Classroom English (教室英語) と呼び、様々な手立てを用いて子どもたちが自然と発することができるようにしています。「Reflection」とは、他者からの評価や共鳴、振り返りを意味し、これらの反応や他者からの評価・振り返りが豊かに繰り返されることで、集団内に信頼関係や調和を意味する「Rapport」が生まれ、積極的にコミュニケーションを図りやすい環境が醸成されると考えました。逆に言えば、Rapport の環境があるからこそ、子どもたちは積極的に英語を使いたくなるのではないのでしょうか。



公開授業後のアンケートの結果からは、「英語をツールとした人間関係の土台をつくる考え方がよく分かった」「子どもたちの様子から、4Rは効果的だと思う」「低学年でも表情豊かな Response が見られた」「4Rをさっそく授業の中で取り入れていきたい」「他の教科や活動の中でも意識できるとよい」「学校が一丸となって指導していることが伝わった」などの多くの評価を得ることができました。実際にどの学級からも、英語を使ってコミュニケーションを楽しむ姿がたくさん見られました。

多くの成果と同時に、今後考えるべき課題もいただきました。それらの課題に向き合い研究を重ねることで、今後もより一層積極的に英語を使おうとする児童の育成を目指して参りたいと思います。

保護者の皆様には、土曜日の開催にもかかわらず、本校の教育活動への変わらぬご協力を誠にありがとうございました。今後も職員一同努力して参りたいと思います。

